World View アジア発

シリーズ「アジアほっつき歩る記」第５回

ミャンマーの真実(1)

～発展するヤンゴン～

須賀　　努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

今や日本はミャンマーブームである。新聞やテレビに頻繁にミャンマーが登場してくる。今回７年ぶりにミャンマーに行くことを友人達に告げると普段はコンタクトが無い人からも、ミャンマー情報を求められる。ミャンマーから帰ったら帰朝報告会をして欲しいなどと言う要請もある。昨年まで何ら注目されていなかったミャンマーがなぜ突然こんなことになったのだろうか。今回ヤンゴンと地方都市シャン州について、７年間の変化を連続でレポートする。

写真１　スーチーさん一色の地元新聞

確かに進む改革

ヤンゴンに着いてまず驚くことは、空港がきれいになっていること、イミグレーションがスムーズに通れることなど、先進国では当たり前のことばかりだ。だが、７年前のヤンゴンにはそれを期待するのは酷と言った雰囲気が漂っていた。

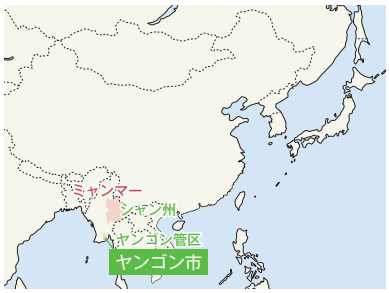
では何が突然状況を変えたのか。要素はいくつもあろうが、何と言っても政府とスーチーさんが歩み寄ったことが大きい。７年前ミャンマー人は「スーチー」と名前を使うのはタブーで「あのおばさん」などと隠語で呼んでいたのを思い出す。だが今回、ヤンゴンの街の新聞スタンドを覗くと、１面にスーチーさんの写真を掲載する新聞で埋め尽くされ、隔世の感があった。正直一般庶民に人気のなかった彼女がなぜアイドルスターのような扱いになったのか。ある古老は「庶民はスーチーを見て、父親アウンサウン将軍を背後に見ている。彼女がやれば何でも出来ると錯覚している。だがスーチー率いるNLD はこれまで何もやっていないし、出来る人材は殆どいない」と解説する。スーチーさんは今やミャンマー国内に熱狂的な信者を持つ宗教団体のような存在、と指摘する向きもある。

逆に就任当時軍の傀儡とみられていたテインセイン大統領は言ったことは必ず実行しているとして、「スーチーさんは人気だけ。実際に改革しているのはテインセイン」と評価は総じて高い。大統領がここまで自由に改革できる背景には軍事政権で実権を持っていたタンシュエ前議長が全ての職から引退した上で、政治に全く介入していないことも大きい。なぜ彼が簡単に権力を手放したのか、ミャンマー的回答で「彼も来世を考えるようになったんだ」と冗談を飛ばす者もいる。

ヤンゴンだけが急激に発展

ヤンゴン市内で驚くのはショッピングセンターが続々とできていること。今年初めてに出来たという最新のビルを訪れると、映画館が併設されているシネマコンプレックスであり、店内はフリー Wifi が

【須賀努氏のプロフィール】
東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾２年、香港通算９年、北京同５年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。



設置されている。若者はここでIpadやスマホを手にショッピングを楽しむ。７年前には全く考えられない世界が出現する。

そして更に驚くのは若い女性の服装。昔のロンジー（伝統的巻きスカート）にタナカ（伝統的な日焼け止め兼化粧）は姿を消し、ミニスカートも目立つ。少し前のミャンマーのお母さんなら怒り出しそうな格好である。

レストランも日本のラーメン屋からタイのファーストフード、シンガポールのベーカリーなど多様だ。因みに今ヤンゴンでは寿司ブーム。市内には20軒を超える寿司屋があり、多くが日本の寿司屋で働いていたミャンマー人がその資金と技術を持ち帰り、開店している。

市内にはイタリアンレストランなども増え、ワインを飲みながらピザを頬張るミャンマー人も普通になって来ている。またおしゃれなカフェも出来ていて、昼から最新ファッションできめた若者がダラッとした格好で、庭先のソファーに座り、談笑している姿を見ると、お金持ちのボンボン息子、娘も増えていると感じる。

一時は中国人が大挙して来ていたが

７－８年前のヤンゴンで思い出すのは、外国人と言えば先ずは中国人。資源関係の国有企業幹部が昼から中華料理屋で白酒を飲んでいる姿も印象的。第２の都市マンダレーは完全な中国人の街とも言われていた。

今回以前通っていた火鍋屋を訪ねようとすると、既に廃業していた。市内にもっと品質が良く、サービスが良いレストランが出来、淘汰されていた。その火鍋屋に行くと、昔の雰囲気はなく、ミャンマー人が子供連れで大量に来ていた。平日夜でも連日満員盛況。

市内には中華料理屋の看板も漢字で出ているが、中国人の姿が目立つことは無くなった。

ヤンゴンは再び各国人が入り乱れ、そしてミャンマー人富裕層の躍進も目立つ、ミャンマーでは突出した都市となっている。今回実感したことは、ヤンゴンだけを見て、ミャンマーを語るのは危険であること、そしてヤンゴン人の平均賃金を聞いても意味がないこと。富裕層と貧困層の二極分化が激しく、平均的なヤンゴン人は存在しないと強く感じる。

写真2　ヤンゴン市内に開店した寿司屋

写真3　市内最新ショッピングセンター内